

過去に学ぶ 蒲郡と大地震

写真は太平洋戦争末期の昭和20年1月13日に発生した「三河地震」の被害の様子です。この地震で多くの家屋被害が発生し、死者数は3千人以上、地震の規模を示すマグニチュードは、6.8ともいわれています。

蒲郡市はその穏やかな気候から、自然災害の少ない地域とイメージされがちです。しかし過去には大きな地震も津波も確認されています。過去に地震があった土地は、今後大地震が起きる可能性が高いとも言われます。



三河地震についての記憶は博物館に所蔵されている「わすれじの記」にまとめられています。

平成26年5月に愛知県から、南海トラフ巨大地震についての新たな被害想定が発表されました。被害予想や地震への備えなどさまざまな情報が届き、その対策が求められる昨今、まず何をすれば良いのでしょうか。

安全安心課 ☎66•1156

地震を知る

南海トラフ巨大地震被害想定(抜粋)

項目	県の新想定(平成26年5月発表)		国の想定 (平成25年6月)
	過去の地震のデータをもとにした 過去地震最大モデル	あらゆる可能性を考慮し千年に一度 あるかないかの地震を想定した 理論上最大モデル	
震度	7	7	6強
最大津波高(到達時間)	3.6メートル(59分)	5.0メートル(55分)	6.0メートル(65分)
堤防が被災した場合の 浸水面積(1cm以上)	131ヘクタール	221ヘクタール	180ヘクタール

過去と可能性から計算された被害想定

これまで市は、平成15年に県が発表した被害想定を基に防災対策を進めてきましたが、今後は、新しい被害想定をデータとして、順次防災計画などを見直していきます。

新しい被害想定は過去と可能性の2つのモデルと、季節、時間帯など細かく条件を分けて計算され、一番被害が大きいとされる数値が反映されています。

津波はどこまで到達する？

津波について、新想定では沿岸部の海抜の低い地域のほとんどが浸水の可能性がある想定されています。蒲郡市においても例外ではなく、大きな揺れを感じたら身の安全を確保したのち、すぐに海岸から離れ高台へ避難することが大切です。

台風や高潮と比べると、地震災害は発生や被害の予測が困難です。想定にとらわれず、地震が起きる前に、起きたときに、するべきことは何かを考えましょう。